

## 第258回鳥取県内水面漁場管理委員会議事録

- 1 日 時 日時 平成26年3月17日（月） 午後1時30分から
- 2 場 所 倉吉市上井公民館 2階 視聴覚室  
所在地：鳥取県倉吉市大平町319-1
- 3 出席者 委 員：足立委員、小林功委員、佐藤委員、小谷委員〔会長〕、川原委員、桐原委員、番原委員  
事務局：岸本事務局長、宮永次長、松原書記  
鳥取県：水産振興局 松沢局長、水産課 清家漁業調整担当係長  
鳥取県栽培漁業センター養殖・漁場環境室 福井室長
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 事  
(1) コイヘルペスウイルス病まん延防止に係る指示について（協議）  
(2) 第5種共同漁業権魚種に係る増殖目標量について（協議）  
(3) 湖山池について（報告）  
(4) その他

### <議事経過及び結果について>

事務局長による開会の宣言、会長による挨拶、会長が議事録署名委員として番原委員と小林委員を指名した後、議事に入った。

### 議事

- (1) コイヘルペスウイルス病まん延防止に係る指示（協議事項）について事務局から資料1に基づき説明が行われた。**

〔小谷会長〕

そうしましたら何かご意見、ご質問等はございますでしょうか。

結局あれですね、指示を外す、域を外すとかそういうようなことができないということなんですかこれ。

〔松原書記〕

そうですね。対策を講じていただく趣旨から照らし合わせて、もう、ここのコイがコイヘルペスにかからないという事が担保できれば、指示の範囲から外してもいいとは思いますが、市

もこの対策をするのに予算的な面もあって、かなり検討はされたいんですけども、やはり難しいということで、指示をかけられても仕方ないということで、ご了解いただいております。

〔小谷会長〕

ということのようですが、その他、何か皆さんのほうで。よろしいですか。そうしますと資料1に示してある案のとおり、指示するということがよろしいでしょうか。はい。では、そういう具合に、指示するようにしたいと思います。

#### <案のとおり指示する旨が決議された>

それでは、次の議題ですが、協議事項、平成26年度第5種共同漁業権魚種に係る増殖目標量についてということで、事務局のほうから説明をお願いします。

#### **(2) コイヘルペスウイルス病まん延防止に係る指示（協議事項）について事務局から資料2に基づき説明が行われた。**

〔小谷会長〕

説明をいただきましたけれども、何かご意見等ございませんでしょうか。はい。どうぞ、おっしゃってください。

〔佐藤委員〕

この天神川のあゆなんですけどね、活字表現では追加できて、あゆは少なかったということなんで、放いたということなんですけど、この少なかったという言葉には、多く含まれる、オープンに言えばですね、いろんな考え方があると思うんですが、工事をしたために、濁水が出たために、放流したものが、例えば、死んでしまったのかどうなのかっていうことを、ちょっとお聞きしたいんですが。

〔松原書記〕

死んだというところまでは確認が取れていませんけども、かなり河川内にあゆが、漁協さんが調査したときに、あゆが少なかったということで、この濁水は、3月の頭と、もう1回、4月の終わり頃に2回ほど出て、かなり漁協さんとしては問題視をされて、いろいろあゆが少ない原因なんかも調べられたみたいなんですけども、死んだかどうかまでは、少し分からなかったみたいです。

〔佐藤委員〕

これ、天然遡上が少なかったということですか。放流したものが少なかったということですか。

〔松原書記〕

両方だというふうに聞いております。放流した後でも、濁水が出たと。

〔佐藤委員〕

そういうことが、福井さん、考えられます。

〔福井室長〕

放流した箇所がいなくなったということみたいですので、濁水がでたので、少なくなったっていうことで。

〔佐藤委員〕

死んだとか、なんとかということでは、ないんですよね。いなくなったと今、福井さん、言われたんだけど、その場所から避難したという具合に考えたらいいんですな、これ。

〔福井室長〕

ちょっとそこはまで。

〔佐藤委員〕

それで、その場所に少なくなったから、その所に実際の数量は放流しとったんだけど、それプラス、そこにおらんようになったから、プラス放流したという具合に認識したらええですよ。あゆがそう簡単に死ぬるもんじゃないですしね、と、私も今は思っております。ちょっとこれ、書いてあることで理解できませんでしたので、すみません、ちょっとだけ質問させていただきました。

〔小林委員〕

濁水の原因は何の濁水なのかちょっと分かりかねるんですが、いろいろコンクリで打ち込んだためにコンクリのね、あれが出たとか。

〔松原書記〕

私が聞いているのでは、国土交通省の工事で工事の撤去作業中だということで聞いておりますので、多分、土砂だと思います。

〔小林委員〕

それほどまでに影響するほど、汚濁水が。会長、私は理解ちょっとできにくいところがあるんですが。

〔小谷会長〕

足立委員さん、なんか聞いておられますか。

〔足立委員〕

何だか、河口のほうに1回、護岸工事で濁り水ものすごい出して、ごっつい怒られたて話を聞いたことがあるけど。

〔佐藤委員〕

半分聞いて、半分聞かなかったことって言う具合で、私、県連の会長をさしていただいております、非常に倉吉の業者から、県連の会長をしとるということで苦情の電話が入ってくる。あまり厳しいだんだんかやで、というような格好で入ってくるわけですが、やはり、県、これに市町村が私どもで考えますと、西部で考えますと、1カ月の月の第2週の水曜日、これが工事するものの400キロ、約400キロを管理しておるわけですけれども、漁協、その中で、工事をする場合には、みんなその中で協議会というものがあるって、日野川の中から3人理事が出て協議をします。何月何日から土嚢をしますよとか、この辺は濁りますよというような協議をしてやるわけですけれども、それさえきちっと、発注者側、それから受ける漁協がですね、きちんと話をしとれば、そういうことは、僕はないと思うんです。魚、釣る人間がね、こっちにぱっぱ、ぱっぱ歩いて、ぼくは濁水がでると思うんですよ。県のほうからも、ある程度のやっぱりそのこういう今の事務局さんは、この濁水に関しては、どの辺か分からんということ言われましたけれども、やはりここに書くんであれば、やはり、水産試験場もあるわけですから、それなりのここで説明ができるぐらいのことは、やっぱりこの知識を得てですね、そこに足を運んでいただいて、濃い説明ができるというような格好にさせていただいたらなというぐらいに私は思いますけれども。なんか、いばったような具合にとれたら、すいません。あれですけども、やっぱり、河川とか湖沼、それはやっぱり鳥取県の宝ですからね、それを守っていかないけんことは確かですけども、相手も期日とか予定とかきちんとしてあるわけですから、僕は、天神川も協議されてるんじゃないでしょうかねと、私は思います。鳥取もあるでしょ。私なんか、もう2週間になるんですけど。

〔小林委員〕

今、日野川さんが、お話がございましたですけどね、さっきの濁水の時期ですが、河口だということでございますんでね、遡上後の濁水なのか、遡上期の濁水、このことを聞いてないもんですから、お聞きするんですが、濁水の出た時期が、遡上した後の工事の濁水なのか、ちょうど遡上期の濁水なのか。もう1点は、日野川、千代川におきましては、事業調整協議会ということで、入札前にそれぞれ3名が、代表が出席しましてですね、その工事の前段での汚濁対策であるとか、工事の工程等々についての協議をさしていただいておりますところでございますけれども、天神川におきましてはですね、漁協との事業調整協議というものは、ないわけですか、これは。

〔松原書記〕

ございます。

〔佐藤委員〕

やっとなるはずですね。

〔小林委員〕

あるでしょう。

〔松原書記〕

はい。

〔小林委員〕

ですから、そのあたりのところの協議会と工事の内容と、その汚濁水の発生の時期、この時期が  
いかななものかなということ、お聞きしたいと思っております。

〔小谷会長〕

どうですか。分かりますか。はい。

〔福井室長〕

ちょっとはっきりした時期までは、本当に今、記憶してないんですけど、あゆが放流されてから  
って聞いてます。4月から5月であることは、多分間違いないと思いますけど。

〔小林委員〕

私は不思議に思うのが、河口の汚濁水が、放流を、河口には、皆放流しません。ある程度の釣り  
場というのを見ておって、溪流魚以外、そこから下流はずっとそれぞれの場所にあゆは放流す  
るように千代川なんかやっておりますけど、河口の汚濁水が放流したものに対しての影響は、  
下がっていけばやむを得ませんけども、ほとんど影響がない。このあたりがございましてね、  
溪流魚においては、今年状況では、放流しましてから1週間ほどの間に下がったのが最長 500  
メートルほど下がってます。ですから、その放流したものが、ほとんど河口の海の近くまで下が  
って、なおかつ、また上がってくるということは、私はないと思うんです。いかなものでし  
ょう。

〔福井室長〕

工事の箇所ですけども、聞いているのが、まず、中流域になるのか、羽合堰堤の工事、あります。  
その撤去作業の時に泥が出た、濁水が出たのが1点と、あと中国電力の発電所が三朝にありまし  
て、これは、中流から上流域なんですけど、そこが1箇所、あゆの漁場としての、ちょっと上流

にあたります。それが1箇所ですね。三徳川でも濁水が出たということ聞いておりますので、あゆの漁場については、かなり影響がある箇所での濁水があったというふうには考えられると思います。

〔小林委員〕

あのね、県の話聞いておりますけれども、発電所の関係も、ダムを若干放流したかもしれません、それは。しかしながら、先ほどの話で、日野川水系で、佐藤会長からのお話を聞いとりますとですが、業者がというところで、非常にという話を聞いておりますが、それならば、上の発電所のダムであるとか、せき止めてあるものなんかの汚濁水を、ダムを若干抜いて、汚濁水が出るということになれば、業者だけではなくて、中国電力のほうにも、同じ形の中での天神川漁業としてはですね、やられないと、その原因が、一方だけの原因を元のようにしてすな、追求されるということについては、今後課題残しやしないかな、今の話をですよ。いかがなものでしょうかな。

〔清家係長〕

天神川のほうもですね、一応、日野川と千代川を含めてですね、工事調整っていうのは、行っておりました。ただちょっと、工事調整を行っている途中でですね、この濁水発生させるっていうのは、どうもその発注業者、発注元の国交省ですか、と、工事業者との間の連絡はしてたみたいなんですけれども、対漁協さんに対する連絡とかのミスとか、そういったところもどうもあったというふうなところもあるようでして、そういった行き違いとかもあったようなことを聞いてますので、そういったことも含めながらですね、国のほうとしても、発注元のほうとしても、きちんとしていきたいっていうような形でですね、考えておられたようです。ただ、実際のところは、そういった行き違いもありながらですね、かなり話は聞いていなかったみたいなところからですね、漁協さんのほうが、ちょっとそういったところで、そのあゆの時期でもあるっていう形でですね、かなり苦言を呈してたというような状況でございます。

〔小谷会長〕

こういので、補償問題っていうようなことが起こるものですか。

〔清家係長〕

どうですかね。

〔佐藤委員〕

私が言いたいのは、こういう濁水、濁水っていうことは、濁水は出るんです。絶対に出るんですよ。いかにしてその協議で、スピーディーに仕事をやってもらうかということが、我々が一番望んでいることだけのことであって、それが昔のようにお金に走ったりすると大変なものですから、ある程度のところで、やっぱりその、こういう所で、こういう濁水の問題が出たならば、いつで

しょうかとか、どんなだったでしょうか、協議会で決まっとったでしょうかぐらいのことは、一番大きな問題でないですか、濁水なんて言ったら。我々に、煙をばあって吸ったようなもんですから。おれませんか、人間も。ということで、私、その辺で、悪しき慣習が漁協にはたくさんあったものですから、それをものすごくこの文言だけ見ると、心配しております、その辺で、県の方も行かれてですね、というようなことを発言したような格好です。

〔小林委員〕

何か理解できんところもございますけれども、千代川の場合、今の佐藤会長のお話のように、千代川も例の基金を作っていただく前までは、一番多くて工事費の5%、3~5%、何であれそういう役員の方々が言って、工事の額からいただいておったと、厳しいようなことをやりよったでしょう。今はほとんどございません。それから汚濁水につきましても、組合員がそれぞれ最低でも月に2回は監視をやっております。それから、組合員が、汚濁水が出れば、組合員または私のほうにすぐ電話が入ってきまして、県の県土整備局ですかいな、あちらのほうに連絡させていただいて、現地確認をし、早急に汚濁を解消する対策を講じておるといふ形でございますので、たぶん、今ほどの影響が出るということになれば、それは、天神川の漁協さんもあまりにも怠慢であろうし、一方的な業者に追及ということになりますれば、今後このことはなかなか、こういう方向で行けばですよ、難しい。

〔足立委員〕

河川の場合は流れがあるでしょう。

〔小林委員〕

ええ。

〔足立委員〕

上流からどれぐらい、基本ですかいな。

〔小林委員〕

基本はね、汚濁水が出れば、魚の生息地は、あれが生息しとる所がみな、へドロで埋まってしまいますと、魚の生活する所がございませんのでね。できるだけ最小限に抑えていただくということで、時々現場のほうにも抜き打ちで、県の方と一緒に抜き打ちで、年に3回か4回ぐらいは、工事現場を回らせていただいたりしましてね、やっとなるわけです、千代川漁協におきましては。

〔足立委員〕

うちの場合は流れがないので、一応、工事関係者と話したときも、沈殿槽を少なくとも3つは作ってもらって、大きなやつ。沈殿槽で十分に沈殿させてから出すつちゅう。もしそれをせんなら工事止めますけど。

〔小林委員〕

そうです。

〔足立委員〕

河川の場合はそういうわけにはいかんのですか。

〔小林委員〕

うちの場合も工事は必ず沈砂池がみな、その工事の汚濁水の出る量に合わせて沈砂池を2つにするのか3つ、規模いろいろございますけれども、その状況を見て、内容説明をしていただいて、一応了承して工事発注をしていただくという形をとらせていただいております。

〔佐藤委員〕

あとは単協で考えていく。

〔小林委員〕

あと、県の方とね。

〔小谷会長〕

それぞれの漁協との協議であったり、現地での確認等々がいろいろ丁寧にされるということが必要なんでしょうけども、県として、事前協議の中に入るっていうことになれば、状況確認をきちっとしておいたほうが、今後のいらんトラブルを起こして、ここでいろいろいい増殖計画等を立てても、とんでもない方向に話が行ってしまうということも起こり得ることですから、そういうことがないように気を付けながら進めるということで、そういう理解の仕方でよろしいでしょうか。

〔小林委員〕

ええ。

〔小谷会長〕

はい。では、その他にということで、いきたいと思いますが、どうでしょうか。よろしいでしょうか。はい、そうしますと、資料に示してある案のとおりということで、放流するということでよろしいでしょうか。はい、じゃあそういうことにしたいと思います。

<案のとおり告示する旨が決議された>

〔小谷会長〕

それでは、次、議題ですが、報告事項として、湖山池についてということで、栽培漁業センターのほうから、説明がしていただけるようですので、お願いしたいと思います。

**(3) コイヘルペスウイルス病まん延防止に係る指示（協議事項）について栽培漁業センターから資料3に基づき説明が行われた。**

〔小谷会長〕

はい、ありがとうございます。皆さんのほうで、意見等ございますでしょうか。

〔佐藤委員〕

福井さん、この前のわかさぎなんですけど、これだけ放したわけですよ、25年度。調査をしたのは、ここに書いてあるのは、15年に調査では10%とか書いてあるんですけど、そのそれまでにはずっと調査をして、ここにはALCをして、酸欠によってたくさん死んだよってということが書いてあるんですけども、それまでにはやっぱりずっとは調査はされていなくて、急にしたということですよ。何年か、例えば3年おきとかいうことじゃなしにですね。

〔福井室長〕

このわかさぎの調査をやったのは、標識の調査をやったのは、15年だけです。今年も、25年度も調査はやったんですけど、7月までの定期的に曳き網で魚をとったりまして、その入ったわかさぎを調べたり、調べたら十分かと思っちゃってたんですけども、あまり数が入らなくてですね、何百ぐらいしか入らなくて、その中では、標識のわかさぎは確認できなかったというところがございます。

〔佐藤委員〕

こういうことで、試験場は何年かに1回というような格好ですけども、やはり、もう少しですね、何か力を入れてもらったらなというぐらいなんですけど、もう、ここは内水面のあれですので、もう、海も確かに銭が転がって入るところなんですけども、上のほうにですね、もう少しやったらなという具合に、やっとならんじゃありませんけども、一生懸命、在来魚とか一生懸命でやらせてもらっていますけども、やっぱりずっとそういうふうには頭から僕、離れんのですよね。海には、莫大な金がおろるんだけれども、川とか湖沼には、あまりなという具合に感じておりまして、間違っておるかもしれません、私の考えが、と思いますけど、この湖山さんなんかにも、結構な県もですね、お金を投入していますので、その辺分かりますけれども、まあこの辺で、またひとつ。

〔福井室長〕

湖山池につきましては、5年間環境が激変したということで、増殖指針は、さらに出ないという

ところで、その5年後には増殖指針を定めるかどうか、もう1回検討が必要になりますので、たぶんデータではですね、これからも毎年、データはあと4年間、以降4年間続けて調査をやる予定でございます。

〔小谷会長〕

ありがとうございます。

〔川原委員〕

塩分濃度が、すごく夏になると上がってっていうのがありますよね。

それで、本当にこれでやれるのかってっていうような状況がでてくる、夏の状況がね。それで、先ほどのシラウオなんかも産卵数が少なくなったと書いてありますけど、その1桁以上違うわけで、相当に少ないわけじゃないですか。そういう何というか、塩分濃度の激しく上下する状況と、それからこういう生物の生態というのと何か因果関係みたいなものっていうのは何かあるんでしょうか。

〔福井室長〕

1つは、今の池の環境が激変しました。これまでは淡水の池でして、プランクトン、魚の餌の基礎になるプランクトンは、淡水性のプランクトンだったんです。それが汽水湖になって、プランクトン自体から大きく変わってきています。そのために、魚の餌の種類も本当に変わってきておまして、その辺の基礎的な餌の環境が安定するためには、何年か調査を継続してみないと、ちょっと今の段階では判断するのは早計かなと思っております。だから、後、シラウオとかについても、塩分耐性がかなり高い種ですので、これ塩分が高くなったからそのものが原因でこういう結果っていうのは、それはちょっと違うのかなという具合に。ただ、ふなについては、やっぱりちょっと湖山については、塩分が高いのはあまりよくないということは、それは確かではあると思います。

〔川原委員〕

その7月の大量死というのは、塩分濃度が上がり過ぎたということですか、酸欠って書いてありますね。気温が高くて酸欠になったのですか。

〔福井室長〕

普通、汽水湖の酸欠は、海水が入ってきて海水が池の深いところに溜まって、その水が動かなくなって酸欠になることが多いんです。そういう現象が、湖山池でも6月、7月初めにあったんですけど、この大量死のときは、そういう重たい海水が入ってきて酸欠になったのではなくて、赤潮プランクトンとかが、有機物が増えてきて、それで何かいっぺんに酸素がなくなったみたいで、水深とかに関係なくて、池全体でいっぺんに全池が酸欠になりまして、ちょっとこれまでとはなんか違ったメカニズムで酸欠になったようですので、それにつきましては、そういう状況が分か

る観測体制に、26年度以降はですね、整備しておりますので、本当もう、大量死が起こりそうでしたら、水門を開けるとかですね、対応を図るような、図れるような状況で今、進めておるところでございます。

〔小谷会長〕

いいですか。その他どうですか。ないようでしたら次に移りますが、よろしいですか。

それでは、次に移りたいと思いますが、委員さん方のほうから、何か報告等や、この機会ですから、思っておられることで、ちょっと話をしとこうかというようなことがありましたら。

#### （４）その他

〔桐原委員〕

昨年10月に京都で行われたオオサンショウウオの全国大会のほうに南部町代表として参加してきました。先ほどこちょっと開催前に変化がでましたので、ご報告をと思います。京都のほうは、外来種交雑問題で、かなり問題がひっ迫してるようで、深刻な状況というふうなことを現場を見て体感してきたんですけども、鳥取県内でオオサンショウウオの大会の立候補を教育委員会さんとともに進めていこうということで、事務局さんから裏情報で回ってきました最新の事案が来ましたのでお伝えいたします。今年、2015年は東広島で開催される予定なんですけど、次の次あたりで鳥取県内の開催、日野、日南町の2009年の開催に続いて、南部町もしくは大山町と合同でできないかなというような話題が少し出ております。あわよくば、2017年ぐらい、それ以降で、その先の話ですけども、教育委員会さん、県の教育委員会さんも含めて、文化財の、町内唯一繁殖してる特別天然記念物をテーマにした大会が開ければというふうなことでお話が進んでるということだけ、ご報告をさせていただきます。おそらく150人から200人ぐらいの教育研究者、あとは、オオサンショウウオが生息している各地域の小中学校、高校生の研究発表とか行われる予定じゃないかとは思いますが、また進展がありましたら追ってご連絡ができればと思います。以上です。

〔松澤局長〕

鳥取県農林水産部水産振興局長を3月末で退任するとのあいさつが行われた。

会長のあいさつをもって、第258回委員会は閉会した。

この議事録の真実を期するため、議長及び議事録署名委員をして記名、押印させる。

平成26年3月17日

議長 会長

署名委員

署名委員